田中研新聞

第127号
2023年12月1日発行

甲南大学知能情報学部田中研究室　ほぼ毎月発行
http://carnation.is.konan-u.ac.jp
編集責任：田中雅博

11月24日

第10回　甲南大学・鹿児島大学合同

ロボット・コンピュータビジョン研究会開催

今回は鹿児島大学で

甲南大学からは、田中教授と学生４名、ＯＢ大西准教授が参加

研究会について

渡邊先生と田中は同じ年齢で、ＡＩの名称の誕生の歴史と同じ時代をお互いに生きてきたことから、相通じる話も多いですが、当然ながら、若い人たちとは知識も認識も異なることがいろいろあり、場所という縦のつながりと、年齢という横のつながりの糸が織りなす布はいつか誰かを暖めうるかもしれないと、中島みゆきのように思う今日この頃です。

場所としては、渡邊先生は東京出身で東京大学で学ばれ、田中は山口出身で京都大学で学ぶという、東と西で、接点に乏しいですが、接点はシステム制御情報学会の委員として同じ学会に出入りしていたことでした。また、時期はほぼ重なりませんが、渡邊先生が東芝で神戸の研究所に配属になり最寄りの駅が摂津本山ということで、時代は異なれど、同じ場所になじみがあるという点があります。

その当時、田中は岡山大学で教えておりました。その後、２０００年前後に私の世代の人は転職ブームが押し寄せました。渡邊先生は鹿児島大学の教員として、私は甲南大学教員となり神戸で働くことになりました。

この研究会は、田中が、学会で知り合いになっていた、鹿児島大学の渡邊先生のもとに個人的なディスカッションのために（場所的な興味もあって）訪問を始めたのがきっかけで始まったもので、研究会という名称にしてから10回目となりました。10回といえば、国際会議でも10回にもならないうちに消滅するものがあることを考えると、結構続いたもので、感慨深いものがあります。10回のうち、甲南開催はわずか２回という寂しさですが、それは、旅行しなければならない人数との関係もあります。甲南は基本的に教員は田中のみで、院生も大体１～３名という状態（これでも、知能情報学専攻の中では院生数は常にトップクラスです）、鹿児島は教員３名で、院生多数を擁しており、鹿児島で行うほうが便利だという状況にありました。コロナの時代は１度Ｚｏｏｍで行い、田中が学部長で多忙だった２０１６年と渡邊先生が副学長でご多忙でもあった２０２１年は休会しました。今回は、渡邊先生が退職後２度目の研究会でした。

学会のように形式ばらず、かつ、日頃見ていない方々に説明するという面もあり、多くのコンピュータビジョン関係の発表や共同研究の紹介に、皆さん興味津々で、親交を深めることもできました。鹿児島の皆さん、ありがとうございました。

来年度は田中が退職の年になりますので、最終回は何としても甲南で開催したいと思っており、早くもプランを練りつつあります。

（田中）

大西　智也（田中研ＯＢ）

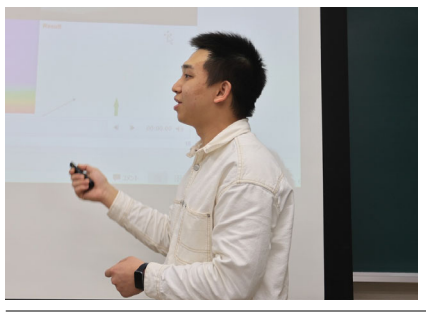
この研究会では第６回～８回、Ｄ１～Ｄ３のときに参加させていただいていた。貴重なアドバイスをいただける機会であり、楽しみにしている研究会の一つである。前回は仕事の調整がつかず、参加できなかったが、今回は田中先生から誘っていただき、また参加することができた。

日頃は授業と雑務に追われ、研究が疎かになりかけていただけに、研究を前進させる良いきっかけになったことは間違いない。大学院のとき取り組んだテーマの延長で新規性の要素はあまりなかったが、身体運動評価の自動化を目指している。今回はＲｅａｌＳｅｎｓｅＤ４５５を使って身体運動を評価するシステムを作成し、デモンストレーションを交えて発表した。早速ＡｚｕｒｅＫｉｎｅｃｔ（現在はＯｒｂｂｅｃｔ Ｆｅｍｔｏシリーズが後継）に関してアドバイスをいただいた。以前にＡｚｕｒｅＫｉｎｅｃｔを購入していたものの、うまく動かすことができず断念してしまっていた。それを取り出し、再度挑戦したところ、動かせた！院生のときを懐かしく感じ、原点に戻ったような気持ちであった。

皆さんにお会いしたのは３年ぶりであったが、違和感なく楽しい時間を過ごさせていただいた。これも先生方をはじめ、研究室の皆さんの懐の広さがあってのことだと思う。本当にありがとうございました。

張　伯聞

11月24日鹿児島大学と甲南大学の研究会の参加のため、初めて南にある九州に行きました。外は暖かくてたくさんの高い椰子を見てやはり少し南国のような気候を感じました。双方の先生方と学生達の研究発表を聞いてたくさんの議論もできましたので、とても有意義な１日でした。自分の研究に対して貴重な意見もいただき、今後早く実用に近いシステムを作りたいと思います。



翌日、特に目的地がなくあっちこっち散歩して、途中城山公園の展望台で鹿児島の町と向かい側の桜島火山を一眸できました。鹿児島の町はとても綺麗で市電がたくさんあり、それと似ている大学時代の大連（有軌電車もたくさん）を思い出しました。

芦川　凜空

Ｍ１の芦川凜空です。鹿児島大学との研究会に参加しました。こういった遠出しての研究会は初めての経験で、準備に非常に手間取りましたが、無事に終えることができました。

研究会の内容は、共同研究のものが多く、学内の発表などではあまり見ないので新鮮で、将来使われそうな技術を知ることができました。また、共同研究は先方の意見に縛られるということも実際の発表で知ることができました。

自分の発表は一応できましたが、説明不足だった部分があったので、次はその部分を直したいと思います。今回の発表会について、田中先生や張さん、大西先生、鹿児島大学の皆様、事務室の皆様に感謝します。

新免　諒

11月24日に鹿児島大学との合同研究発表会にＺｏｏｍで参加させていただきました。

僕も発表させてもらいましたが、研究内容はもちろん、発表でも短くまとめようとして要点が分かりにくくなっていたり、重要な点で言葉が詰まってしまうなど課題は多いと感じました。また鹿児島大学の学生の皆さんの様々な研究を拝見させてもらい大変勉強になったと同時に良い刺激になったと感じています。

とても有意義な時間をありがとうございました。

陳　俊豪

この度、鹿児島大学との合同研究会で発表する機会を頂きました。その感想を一言で表すなら、大変悔いが残るものでした。早口で説明したところ，想像以上に早く終わってしまいました。また、説明をもっと意図が伝わるようにする必要があると思いました。発表後の質問に対してもスムーズに答えられるようにする必要があると感じました。今回の反省点を今後の発表会で活かせるよう、精進していきたいと思います。最後に合同研究会に参加された皆様に感謝申し上げます。

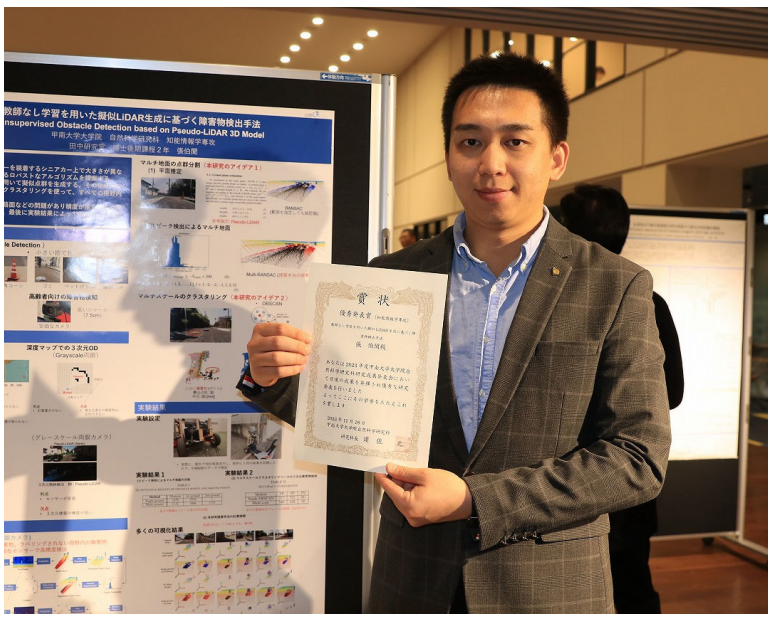
晩秋の後楽園と外園

田中雅博

11月18日

自然科学科研究成果発表会で、院生がポスター発表

張君、優秀発表賞受賞！



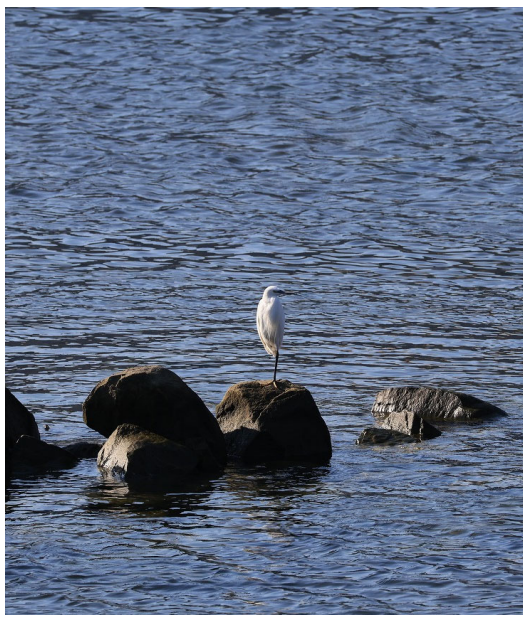
張　伯聞

11月18日の午後から開催される自然科学研究科の成果発表会に参加し、ポスター発表とデモ展示をしました。私のタイトルは「教師なし学習を用いた擬似ＬｉＤＡＲ生成に基づく障害物検出手法」です。博士学生発表者の中で優秀発表賞を頂きました。いつもご指導いただいている田中先生、実験協力の皆さん、今回アドバイスを頂いた方々（日本語での先生約４名、英語での外国研究者約２名）に感謝申し上げます。

今回の発表内容は、今年出したＩＣＲＣＶ国際会議論文の中の教師なし学習での認識の部分ですが、教師あり学習と両者のセンサーフュージョンの部分はポスターのスペースの関係で発表していませんが、フルバージョンは来週の鹿児島甲南合同研究会で発表する予定です。今回の障害物検知という内容以外は、発表に聞いていただいた先生方からのお話は、ほぼ今後その検知結果を実際にどう利用して全体システムに反映するのかとのことです。これからの研究スケジュールは、先にジャーナル向けの研究（１個の問題点を深く絞る）を行い、その後は博士論文向けにそれぞれの検知機能をまとめて実用的、網羅的なシステムを完成する予定です。

芦川　凜空

11月18日の成果発表会に参加しました。院生になってから初の発表で緊張する場面もありましたが、なんとかやり遂げられました。今回の発表はポスターでの発表で、ポスター作製も初めてだったのでわからない点が多かったものの、様々な指導をいただいて、完成させることができました。今回は賞を取ることができず、残念でしたが、自分が発表やポスター制作での反省点がわかったので、今後に生かしていきたいと思います。



今年は夏がひときわ暑く、また、秋も11月はじめまで暑さが続いたせいか、11月中旬になっても、紅葉らしい赤の葉にならず、すでに茶色で縮れて枯れた葉もあり、とうとう、紅葉もなくなったか！と、あきらめていましたが、ここ10日ほどは冷え込む日も増え、鮮やかな紅葉も見られるようになりました。今年は、紅葉は遅いようですが、これから最盛期を迎えそうなので、是非、１年のカラフルな季節の最後を楽しんでいきたいと思います。

ところで、後楽園は日本三名園の１つですが、美しい所は園の外にもあります。何を隠そう、上の写真の、最初の銀杏は園内ですが、あとの写真は、お金を払わなくても見ることのできる、外園の景色です。園の外は遊歩道になっていて、その外は旭川、お城、川と遊歩道の間には立派な木がたくさん植えてあります。

私は日本三名園は全部行ったことがありますが、それぞれの特徴を一言で表すとしたら、偕楽園は梅、兼六園は松、後楽園は芝でしょうか。後楽園は一面芝生でおおわれており、靴のまま芝に入っていいところがほとんどです。広々した解放感が後楽園の特徴かと思います。

日本庭園といえば、高松の栗林公園が好きです。私が好きな公園は、「鳥」がたくさんいるところなんですよ。後楽園は中央に大きな池があり、そこに、美しいカモがやってきます。今はまだ少ないですが、これから寒くなるとカモの種類と数が増えてくるので、それを楽しみにしています。景色を見に行くときは、広角と望遠のズームレンズを１つずつ持っていきます。

「人」を撮るのでなければ、その間の標準レンズはいらないなあと思うこの頃です。

予定

12月5日　田中教授、神戸市シルバーカレッジで講義▼12月14日～16日　田中教授と芦川君、新潟でのＳＩＣＥ－ＳＩに出張、芦川君発表

編集後記

この田中研新聞の読者はどれくらいいるのだろうか、誰が見てくれているのだろうかと常々思っていますが、思いがけず遠方の大学の方が見てくださっていたり、私の身内にあたる人が定期的に読んでくださったりしているのを知って、喜んでいます。

何事も継続が重要ということは私の信念で、中学生のときに、続基礎英語を聞き続けたということが私の英語力の基礎となっているのは確かです。その後、残念ながらいろいろな雑念が入って、ひたすら継続してきたことはあまりないのですが、田中研新聞は、今になってみると、よく続いたなあと思います。コロナで自宅からオンラインだったときなど、書くこともなかったのですが、とにかく続けようと、１ページでも続けたことがよかったと思います。

今の日本、何をやってもだめという感じが強いですが、それは、（特に政府が）焦ってしまって、いろいろなことを試みてはやめ、試みてはやめということを繰り返していることが原因と思います。もっと愚直に、やっていることを認めるべきと思います。政府は農家と中小企業から、仕事とは何かを見習うべきです！私自身、市民農園で学んでいることが多々あります。